授業科目名	認知症の理解Ⅰ		科目コード	１０３０	
開講クラス	介護福祉学科	コース	介護福祉士コース	学　年	１年
担当教員	越谷　美貴恵				
	実務経験教員（ 有 ・ 無 ） 実務経験内容 社会福祉学博士 公認心理士				
開講時期	前期・後期・通年・特別講義・その他			授業コマ数	３０時間
	必　須 ・ 選　択 ・ 選択必須			単　位　数	１単位
使　用 テキスト１	書　名	最新・介護福祉士養成講座『認知症の理解』			
	著　者	中司　登志美　他			
	出版社	中央法規出版			
使　用 テキスト２	書　名				
	著　者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他（　　）				

＜授業の目的・目標＞
- 介護福祉士に求められる認知症をめぐる医学的知識について学ぶ。認知症原因疾患の病態や症状について理解する。
- 認知症によって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響、また認知症の人の心理状態について理解する。
- 認知症の人の体験について学び、認知症が生活の様々な場面に影響を及ぼすことをふまえ、介護福祉士としてどのような環境を提供すべきかについて考える。

＜授業の概要・授業方針＞
認知症について基礎的知識を習得し、認知症患者の抱える心理的問題、日常生活に関する問題について学ぶなかで、認知症の進行に応じた関わり方やケアの展開について考える。
また、認知症本人だけでなく、介護する家族を含めた支援のあり方や認知症の予防について学ぶ。

＜成績基準・評価基準＞
１）グループ発表・・・３０点
認知症高齢者の心理・行動障害（ＢＰＳＤ）に対する生活支援技術について、レポート１０枚程度にまとめ、２０分以内で発表する。
※ＢＰＳＤのすべてを論述するのではなく、徘徊、暴力、異食など、いずれかに焦点をあて、その行動の心理的背景等をふまえ、具体的な支援、介護方法をまとめる。
２）試験・・・７０点

＜使用問題集・注意事項＞
※必要に応じて随時、資料を配付

＜授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他＞
・ボランティア、施設見学、（施設・在宅）介護実習

授業科目名	認知症の理解Ⅰ	
回	授　業　内　容	備　考
1	認知の定義と診断基準	
2	認知の定義と診断基準	
3	中核症状と BPSD	
4	中核症状と BPSD	
5	認知症の現状（日本及びアジア諸国の現状）	
6	認知症の現状（日本及びアジア諸国の現状）	
7	脳のしくみ	
8	脳のしくみ	
9	中核症状（記憶障害・見当識障害・遂行機能障害）の理解	
10	中核症状（記憶障害・見当識障害・遂行機能障害）の理解	
11	中核症状（空間認知障害・失認・社会脳・失語・失行）の理解	
12	中核症状（空間認知障害・失認・社会脳・失語・失行）の理解	
13	BPSD の定義・分類	
14	BPSD の定義・分類	
15	BPSD の要因（背景因子）	
16	BPSD の要因（背景因子）	
17	認知症の診断・認知症の評価尺度（HDS-R・MMSE 等）	
18	認知症の診断・認知症の評価尺度（HDS-R・MMSE 等）	
19	アルツハイマー型認知症の病態・症状	
20	アルツハイマー型認知症の病態・症状	
21	血管性認知症の病態・症状	
22	血管性認知症の病態・症状	
23	レビー小体型認知症の病態・症状	
24	レビー小体型認知症の病態・症状	
25	グループ発表	
26	グループ発表	
27	前頭側頭型認知症の病態・症状	
28	前頭側頭型認知症の病態・症状	
29	認知症の治療薬（ドネペジル・ガランタミン・リバスチグミン・メマンチン）	
30	認知症の治療薬（ドネペジル・ガランタミン・リバスチグミン・メマンチン）	